

大刀洗町住民協議会

第1次答申

「ゴミについて」

大刀洗町住民協議会

大刀洗町長 安丸国勝 様

日本はこの先人口が減少し、また高齢化が急速に進む。大刀洗町もその例外ではない。社会環境が大きく変化するため、公（パブリック）の担い手を見なおさなければ持続可能な社会は築けない。

公（パブリック）の課題に対する取り組みやサービスについて（1）住民の労力でどこまで負担し、（2）税金を使って行政がどこまで負担するか、また（3）課題やサービスの水準はそのままが良いか、という 3 つのバランスを住民自身が考えることが重要である。

大刀洗町住民協議会はこうした考えのもと、平成 26 年 2 月 15 日に第 1 回会議、平成 26 年 3 月 9 日に第 2 回会議、平成 26 年 5 月 25 日に第 3 回会議を開催し、大刀洗町のゴミについて議論した。各委員の意見を踏まえ、大刀洗町の住民および行政が取り組むべき事柄を本答申にまとめた。

より良い大刀洗町を築いていくために、住民が積極的に行動していくべく、まずは各委員自らが行動し、また周囲にも働きかけて一人でも多くの住民を巻き込んでいきたい。

住民の積極的な行動を推進するために、町長がリーダーシップを発揮し、本答申にまとめた行政が取り組むべき事項を実現していただきたい。

平成 26 年 7 月 12 日

大刀洗町住民協議会

第 1 分科会 分会長 佐田 壽 男

第 2 分科会 分会長 中垣 幸 男

## 1. 住民協議会概要

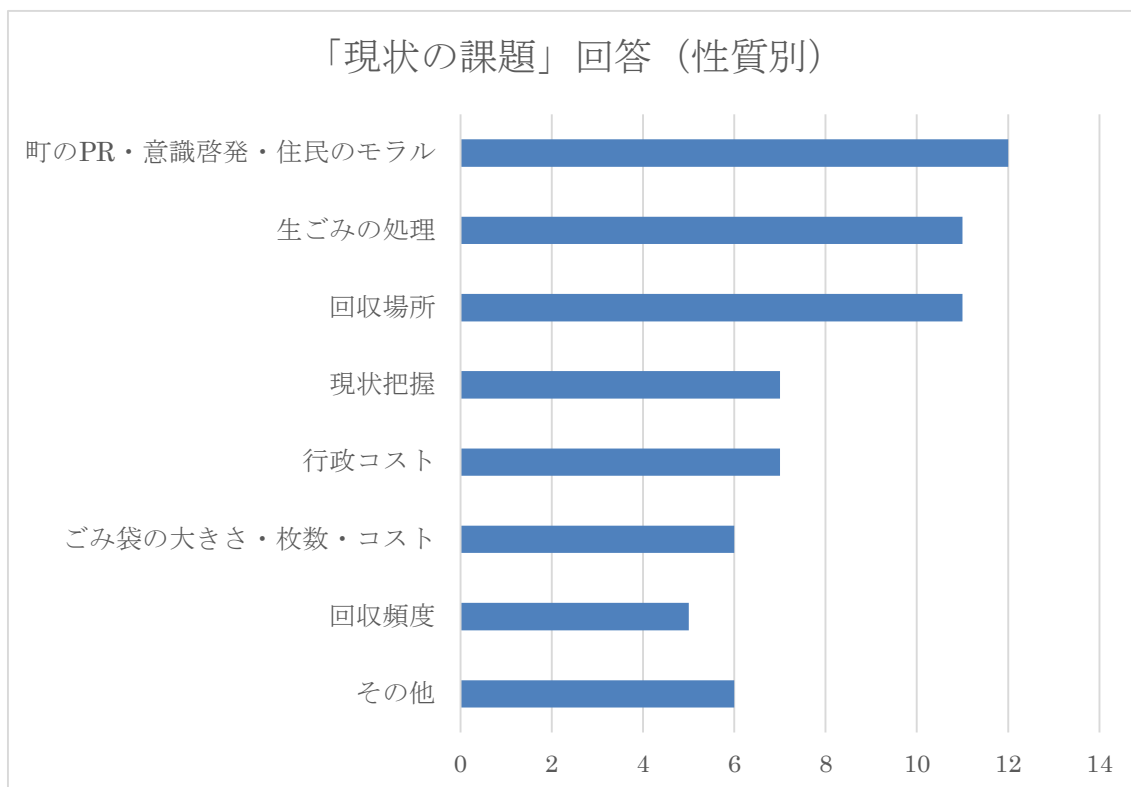
大刀洗町は、町民とともに様々な行政課題の解決策や税金の有効な使い方を議論し、行政に反映することを目的とした住民協議会を設置した。町民の中から961人を無作為に抽出し協議会委員の案内を送付、応募のあった89人の中から20人（うち1名が都合により辞退）が抽選で選ばれ、今般の住民協議会に参加した。

まず、平成26年2月15日の第1回会議において、大刀洗町のゴミ行政の所管課（住民課）より、ゴミ行政の全体像について説明を受けた。その後、3月9日の第2回会議（委員15人参加）において2つの分科会に分かれ、構想日本のコーディネーター、ナビゲーター（各班1名ずつ）、大刀洗町担当課とともに、町のゴミ行政の全体像の共有をしたうえで現状の課題やその解決策について議論を行った。議論しながら各委員が、「改善提案シート」（大刀洗のゴミ行政について何が課題でその解決策を考えるにあたって、「個人」「地域」「行政」それぞれが何をすべきかを記載するシート）に記入した。

第2回協議会終了後、各委員の改善提案シートに記入された意見等を構想日本が整理してたたき台を作成。それを基にして第3回協議会（5月25日開催）において、再度各分科会に分かれ、それぞれの課題の解決策について、深掘りの議論を行った。

## 2. 各委員の考える「課題」の概要

第2回協議会において各委員が改善提案シートに記載された、大刀洗町のゴミ行政についての現状の課題を整理すると、15人の委員からのべ65項目の課題が挙げられた。それらを大まかに分類すると以下ようになった。



大刀洗町のPR、住民への意識啓発及び住民のモラルに関する課題が最も多かった。ゴミを分別して出すことだけでなく、その先にある回収や処分の一連の流れや、そのためにかかる税金についてなど、住民がわからなかった点が多かったと言える。コスト（税金の使い方）に関する課題も多かったことも含めて、この協議会での議論を通して行政のPRの重要性やコスト意識について考える人が増えたのではないかと考えられる。

また、生ゴミの処理に関する課題も多かった。協議会での議論も含めて考えると、生ゴミの処理は日常生活において最も身近に感じられることが一因になっているのではないかと推測される。そのほか、回収場所、回収頻度やゴミ袋の大きさ、枚数等に関する課題が多かったことについても、同様のことが言えるのではないだろうか。

行政の現状把握について課題だとした人も7名いた。課題と解決策を考えるにあたって、いまどのような状況にあるのかがわからなければ議論を深めることができない。今回のゴミの問題に限らず、現状把握は行政の課題を町民に説明するにあたっての基礎となるため、大刀洗町としては十分にこのことに留意していただきたい。

### 3. 委員からの改善提案

2. の個々の課題の解決策について、第2回、第3回協議会で各委員が改善提案シートに記載した内容を整理すると以下のようになった。

#### (1) 町の PR・意識啓発・住民のモラル

課 題		ゴミ問題に関する現状が伝わっていない。
改善提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資源ゴミは有価物だという意識を持つ。</li> <li>・ ルール通りに出すことの徹底。</li> </ul>
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出したゴミがどう処理されているかを知る。</li> <li>・ ゴミの減量は町の税の負担も減ることを地域が住民に対して PR する。</li> <li>・ 地区ごとに住民間の話し合い。</li> <li>・ エコサークルの活性化。</li> </ul>
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標をはっきりとさせて、住民に示す。</li> <li>・ ゴミ減量のための提案を住民から募集する。</li> <li>・ 減量によるコスト削減額など、よりわかりやすい資料の作成（ゴミの量をグラム単位でなく、袋単位で示すとわかりやすい）。</li> <li>・ 分別、減量化の意義やエコの PR（広報紙、Facebook、ドリームまつりなどを活用できる）。</li> <li>・ 役に立つことを明確にして、住民の参加したい意識を喚起する。</li> <li>・ 住民への説明会、周知への努力。</li> <li>・ 小中学校の授業での啓発。</li> </ul>

課 題		ゴミ減量への住民の意識が足りない。
改善提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町の発信する情報にしっかりと目を通す。</li> <li>・ ゴミを減らす工夫（捨てずに使用できるものなど）をする。</li> <li>・ ゴミについて自ら学んで周りにも伝えていく。家庭でもゴミの課題について話しあう場を持つ。</li> <li>・ 分別をする意味をもっと自分事として考え、</li> </ul>

		<p>ルールを守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買い物時、不要なものを購入しない。</li> <li>・ ゴミの野焼きの中止。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域でゴミ出しについて学習機会を設ける。</li> <li>・ 住民同士（コミュニティ、隣組、行政区など）の意識共有。</li> <li>・ 地域でのイベントの実施（エコフォーラム、ゴミ拾いなど）。</li> <li>・ 校区ごとにゴミ減量や処理費用の減額効果を競い、切磋琢磨しあう。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モデル地区を策定する。</li> <li>・ 集団回収の告知や実施などへの協力。</li> <li>・ ゴミ出しマニュアルを作る。</li> <li>・ エコ料理教室の開催。</li> <li>・ 集団回収未実施地域への働きかけ。</li> <li>・ ゴミの野焼き禁止の指導。</li> </ul>

## (2) 生ゴミの処理

課 題		生ゴミによって可燃ゴミの量が増える。
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水気を切って新聞紙にくるむ（乾燥させる）。</li> <li>・ 畑に返す。</li> <li>・ 隅から隅まで食材を使う。</li> <li>・ 買い物で無駄をなくす。</li> <li>・ 自分が今までよりひと手間かける。</li> <li>・ 様々な処理手法を知る努力をする。</li> <li>・ 楽しんで取り組む。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴミの出し方勉強会の実施（野菜くずを活用する料理教室等）。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勉強会などの実施による住民の意識啓発。</li> <li>・ 台所用生ゴミを堆肥化し肥料として使えるようモデル地区を策定し、生ゴミの減量化を図る。</li> <li>・ 個人や地域の良い取り組みを広報紙などで紹介する。</li> </ul>

課題		生ゴミ処理機の認知度が低く普及していない。
改善 提案	個人の実践	・ 生ゴミ処理機を活用し堆肥化を進める。
	地域の実践	・ 集落での生ゴミ処理機の活用。
	行政の実践	・ 生ゴミ処理機購入に対する補助金の認知度を高めるためのPR活動の強化。 ・ 普及の度合いによっては、助成制度を止めて別の方法を検討してもよいのではないか。 ・ 処理機活用（休耕田畑での農業体験等）のモデル地区の策定。

### (3) 回収場所

課題		資源ゴミの回収場所が少ない。
改善 提案	個人の実践	・ しっかり分別する。 ・ 少し離れたところでもゴミ出しをする。 ・ 集団回収で出す。
	地域の実践	・ 子ども会の利用の促進。 ・ 集団回収を増やす。 ・ 高齢者等、回収場所へ運ぶことが困難な人たちへの協力体制を作る。
	行政の実践	・ 役場や公民館など公共施設に回収場所を設置する（施設を利用するついでに捨てられるという利便性がある）。モデル地区から始めても良いのではないか。 ・ 拠点回収を行う場合は、不法投棄対策もきちんと行う。 ・ 地域の実践に奨励金を出す。 ・ 野菜のトレー、ビンの回収をスーパー等の事業者で回収できるよう依頼する。 ・ ペットボトルのふた、プルタブの回収拠点場所を作る。 ・ 集団回収の実施状況を把握し、住民に伝える。

#### (4) 現状把握

課 題		町の現状把握不足。
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大刀洗の現状や他市町村の状況を知る努力。</li> <li>・ 町の発信する情報にしっかりと目を通す。</li> </ul>
	地域の取組み	
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の市町村と比較し、良い部分を取り入れる努力。</li> <li>・ ゴミの量やコストの分析。</li> <li>・ 20年前から対策をしながらゴミの量が減っていないことの分析。</li> <li>・ 先進地域への見学（住民等）の実施</li> </ul>

#### (5) 行政コスト

課 題		サンポートへの負担金、回収事業者への委託の見直し。
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビンの色分けなど、事業者が行っていることを個人で行うことでのコスト削減。</li> <li>・ 個人の努力によって税負担が下がるなどコスト面にもっと関心を持つ。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分別によって税負担が下がる可能性のあることを地域でPRする。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 減量対策による負担金減額の試算。</li> <li>・ サンポートの炉の作業分析。</li> <li>・ 他の自治体との比較。</li> <li>・ 大規模改修を見通した対策を今から検討すべき。</li> <li>・ 回収事業者選定の競争性を確保する。</li> </ul>

課 題		売却できる資源ゴミの有料化の見直し。
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民からも費用の流れを示してほしいと声を出す。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴミを「売り物」として出す方法を考える。</li> <li>・ 住民の声をまとめて行政に伝える。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 売り払い価格を少しでも上げる努力をする。</li> <li>・ 住民が負担する理由の詳しい説明。</li> </ul>



(6) ゴミ袋の大きさ・枚数・コスト

課 題		ゴミ袋の枚数が多く、かつ大きいので使い切れない。
改善 提案	個人の実組み	・ 分別の徹底。
	地域の実組み	
	行政の実組み	・ 袋を 10 枚セット販売だけではなく、少数（5 枚ほど）や 1 枚での販売を行う。 ・ ビン、不燃ゴミの袋の大きさを小さくし、枚数を減らして金額も見直す。

課 題		ゴミ袋のコストが高い。
改善 提案	個人の実組み	・ ゴミ減量の努力。
	地域の実組み	・ ゴミ減量に向けた地域での協力。
	行政の実組み	・ 有料と無料によるコストの比較。 ・ 価格の見直し。

課 題		粗大ゴミの活用ができていない。
改善 提案	個人の実組み	
	地域の実組み	・ フリーマーケットの開催。
	行政の実組み	・ ステッカーの料金設定の見直し。

(7) 回収頻度

課 題		資源ゴミの回収回数（月 1 回）が少ない。
改善 提案	個人の実組み	・ ゴミを出さないよう心掛ける。
	地域の実組み	・ 集団回収を子ども会、老人会、ボランティア、PTA 等で積極的に行うようにする。
	行政の実組み	・ 回収を増やすことによるコスト増の分析。 ・ 市場の一角や地域の回収ステーションに町民がいつでも出せるようにする。

(8) その他

課 題		ビンの回収の徹底。
改善 提案	個人の実組み	・ 民間商店に空き瓶を出すと還元されるので徹底する。

	地域の取組み	・ 地域が中心となりビンを回収し個人へ還元。
	行政の取組み	

	<b>課 題</b>	オムツのゴミが袋半分を占める（子ども用だけでなく、大人用、ペット用とオムツのゴミが増えている）。
改善 提案	個人の取組み	・ 大便是トイレに流すことの徹底。 ・ かさばらないように努力する。 ・ 住民の声として役場に提案する。
	地域の取組み	
	行政の取組み	・ 大木町のようなオムツ回収箱の設置（コミュニティセンターなどに設置）。

	<b>課 題</b>	カラスが生ゴミを荒らす。
改善 提案	個人の取組み	・ 荒らされないことを心がける。
	地域の取組み	・ ゴミにかけるネットの購入。
	行政の取組み	・ 町としてネットを配る。 ・ 夜間回収を検討する。

	<b>課 題</b>	今のところ課題はない。
改善 提案	個人の取組み	・ 何か決まれば協力したい。
	地域の取組み	
	行政の取組み	

### 3. 最後に

本住民協議会は、「住民対行政」の構図ではなく住民同士が議論して解決策を探る試みで、全国でも初めてと聞いている。また、すべてを行政に要望するのではなく、「個人としてできること」、「地域でできること」をまず考え、その後に「行政がやるべきこと」を考えるという点も特徴だと考える。まだ試行段階なので議論の仕方など改善すべき点もあると考えるが、複数の委員が「このような場にもっとたくさんの人が出られるのが良い」と言っていた。是非この取組みを多くの町民に知ってもらい、また参加してもらおうようにさらに工夫をしていただきたい。私たち町民も、町で行っていることを当事者意識をもって考えていくように努力していきたい。

# 【参考】各委員からの提案（個別）

## ①第2回会議における意見

名前	あなたが考える現状の問題	その問題を解決する方法(行政)	その問題を解決する方法(個人)	その問題を解決する方法(地域)	その問題を解決する方法(その他)
A	今のところ個人的に問題点はないです。役場の一角に資源ゴミ回収ケースのようなものがあればいいのではと思っています		何か決まれば協力したいと思っています		
B	資源ゴミ回収場所が犬刈洗にはあまりない(あったとしても1ヶ所だけとか) オムツのごみが袋半分を占める 台所ごみが毎日出ているので燃えるごみがいっぱい出る ビン・不燃のごみ袋が大きいので使い切れない	分別のルールを作る 補助でゴミ処理機が買えることをもっと前に出す(認知度が低い) ビン・不燃ごみの袋の大きさを小さく、枚数を減らして金額も見直す	洗って分別する! 便を捨てることを徹底する 乾燥させて量を減らす 仕分けを徹底する(色分けなど)	回収場所を作る(トレー・缶一日常よく出る物、ペットボトル、キャップ) オムツ回収ができるように場所を作る 生ゴミは細にかえす 回収場所を作る	
C	飲食用缶の排出の仕組みを変化できないか(各自治体の収入)	各自治体の収集場所の整備	各家庭で意識を高める	資源になるゴミを、スーパー等の近くに回収場所があると良いと思います	資源になるゴミをより多く回収する努力をして地域に還元してほしい
D	ゴミ袋の枚数を減らせないか 家庭で出るゴミを野外で燃やしている 家庭から出るゴミを少なくするPRが必要 有害物質を現場に設置する(地区でも良い) 燃えるゴミを出す時、カラスが生ゴミを荒らす	製造業者との調整 指導をする 提案を募集する 検討してほしい 荒らされないような方法を考える	ゴミの量を減らす 止めさせるよう注意する 工夫する 有害物との意識をもつ ゴミにかけのネットを置く(私の家では買っています)	集金等で止めるように周知する モデル地区として実施する 町としてネットを配る	
E	資源ゴミの出す日が少ないと考えている人もいる	集める場所の確保	市場の一角や地域の回収ステーションに町民がいつでも出せるようにする。(大型スーパーがやっているように)	市場の一角や地域の回収ステーションに町民がいつでも出せるようにする。(大型スーパーがやっているように)	ゴミ袋を集めるのではなく、町民が自分でいつでも出せるようにしても良いのでは
F	資源ゴミのビンの色分けについて一三輪産業がやっていることを個人でやればその分お金が少なくて済む 生ゴミ処理機の普及率	回収場所の確保 町として補助があることのPR	市場の一角や地域の回収ステーションに町民がいつでも出せるようにする。(大型スーパーがやっているように) もっと処理機を使う人が増えれば生ゴミの量が減るのではないかな		処理機を使っていますが、生ゴミの量が減るのでもないかなと思います
G	ゴミ袋の費用負担 ゴミの出し方が現状のままでもいいのか 収集業者や搬入業者への負担金が適当であるのか	・ゴミ袋の価格の見直し ・枚数の見直し ・資源ゴミを回収する場所(役場等)を作る ・可燃ゴミを回収する場所を集約する 他市町村との比較をする	・ゴミの量を減らす努力をする ・分別の徹底をする 少し離れたところでもゴミ出しをする	地域の住民と協力する	
H	生ゴミ 資源ゴミ ゴミの出し方 焼却炉の問題、耐用年数一今後、新設が必要がある	・分別を徹底する ・モデル事業(生ゴミを入れた堆肥を作った)を農業委員会や他部署を巻き込んで ・拠点回収できる場所を公共施設等で増やす ・集団回収の告知・開催・運営に携わってもらう 鳥栖市のようにHPD形式が各家庭等にゴミ出しマニュアルを作る 役場で週1回資源ゴミなどを分別回収する(朝～夜7時くらいまで) ・住民に対する説明会 ・行政と住民による話し合い	・水気を切った新聞紙にくんで出す ・隅から隅まで食材を使う ・買い物で無駄をなくす ・集団回収や拠点回収などで出す 地域でゴミ出しについて学習機会を設ける ・持っていける人が持っていく ・分別に協力できる人が協力する	コンポスト等で堆肥を作ったり、農業体験を通した地域の繋がりが ・回収回数を増やす ・ゴミ出しについて自ら学んで周りに伝えていく ・持っていけるときに持っていくと思う ・分別に協力できる時は協力する	堆肥として使う。牛の餌として使う。 指定場所を増やして、資源ゴミは月2、3回収し、コンテナ回収とする
I	生ゴミ処理を減らす方法 資源ゴミのあり方 一売却できるのに有料?住民負担の理由とは ゴミ問題 一住民が努力したらコスト削減できるのか? 一住民の方でどうにかなる問題なのか	・ゴミを減らすための勉強会を開催して、住民の意識改革をしていくと良い ・減量したらどれだけコスト削減になるのか? →もっとわかりやすい資料を作成してほしい ・現状をもっと把握してほしい ・住民が負担する理由など詳しい説明がほしい ・行政がもっと住民への周知をしていく必要 ・現状を把握し、そして提案し、住民への意識改革への努力を怠らないといけないのではと考える	・野菜の葉から皮まで利用していく ・水分を切って燃やしやすい工夫をする 分別をルール通りに出すことの徹底	・集落で生ゴミ処理機の利用活用 モデル地区を作ってみたいらどうか	
J	可燃ゴミの出し方 可燃ゴミを減らす 資源ゴミ回収(ペットボトル、アルミ等)	資料などを提示する エコPRを行う ・回数の見直し ・個別に集約できる場所の検討	水分を少なく、乾燥させて出す ・買い物時、不要なものを買わない ・使用できるもの、野菜などを工夫する ・洗浄して定められた様式で出す	エコサークルの活性化	
K	ゴミの出し方 一ゴミの出した後、どうなっているのか知りたい ビンの出し方 ゴミ袋について ペットボトルの出し方 粗大ゴミの出し方 生ゴミの出し方～堆肥化～ 住民のゴミの出し方の意識を変える	・生ゴミはコンポストの利用で堆肥ができるが、使い方がわからないので地区で講習会を開催してもらいたい →モデル地区を作って結果を見る ・地域住民意識改革 ・エコ料理教室の開催 ・近くの酒屋さんに持っていきお返しに還元 ・袋が大きく重たいので、中くらいの袋にしたらどうか ・ゴミの減量化 ・袋を10枚から5枚にする税金をゴミ処理に使っているのだから、減量してコストダウン ・役場の駐車場や公民館で資源回収ができる場所があったらわざわざ出しに行かなくてもいいのでできる利便性があるので設置してほしい ・ステッカーの付録添付 ・堆肥化をする仕組みを作る ・作った堆肥をどうするか 行政として分別の意義とどうして分別するかの意義をPRする ・売り払い価格を少しでも上げる努力をする ・役所として交渉能力を上げる努力をする	・自分が手間をかけてゴミを減らす ・生ゴミの水分を良く切り、乾燥させて出す ・食材の使いきり、食べ残し・無駄な買物をしない ・詰め替え商品の購入 ・マイバック持参 ・紙パックを買う ・再利用のため洗って出す もって関心を持って、コストを減らす	環境保全学習 ・いかに楽しく取り込むかが課題	
L	ゴミの減量化 集団回収の有効な活用	・ゴミの減量化の意義の周知 現在の都市部では集団回収は行われていないので、この取り組みを小中学校だけでなく、地域でも行う働きかけを行う	町の税負担が下がることを考えてみる 住民の参加を募り、サポート処理だけでなく「売れる資源」という発想で行う	・紙パックを買う ・再利用のため洗って出す 排出規制、環境への配慮	処理委託や売り払いの意味が良くわからない ・地域で取り組んでもらいたい、奨励金を出す。 ・スーパーで利用 ゴミの出し方勉強会を地域で実施する
M	生ゴミの出し方 資源ゴミの出し方 ゴミ袋の出し方 サンボートのあり方	・生ゴミ処理機の補助、使い方の説明などを聞く ・現在のゴミの量を把握する ・飲食ビン・ガラス・割れ物を分別して出さなくてよいのでは? ・月一回では少ない ・役場にそのような場所を作る ・20年前からやっているのにゴミの量が減っていない ・ゴミの分析などをやる ・炉の作業分析 ・ランニングコストは適正か?	・水を良く切るなどしてなるべく量を減らす ・野菜を丸ごと利用するなど	子ども会の利用など 資源ゴミの袋が有料なのは?	
N	燃えるゴミの生ゴミ分析を考える 生ゴミの量を減らす 資源ゴミの回収を減らす 生ゴミの可燃物処理の仕方を考える	燃えるゴミの生ゴミ分析を考えると、おむつ、紙などと区別し、台所ゴミ専用の袋を作る ・野菜の切りくず(皮)を利用した料理を作る ・その料理教室を開催する ・野菜のトレー・ビンの回収をスーパー等の事業者へ頼み、そいった回収場所へ持っていく ・ペットボトルのふたの回収拠点場所を作る 台所用生ゴミを堆肥化し肥料として使えるよう一部の地区をモデル地区として町が作り、生ゴミの減量化を図る	燃えるゴミを生ゴミと、おむつ、紙などと区別し、台所ゴミ専用の袋を作る ・野菜の切りくず(皮)を利用した料理を作る ・その料理教室を開催する ・野菜のトレー・ビンの回収をスーパー等の事業者へ頼み、そいった回収場所へ持っていく ・ペットボトルのふたの回収拠点場所を作る 台所用生ゴミを堆肥化し肥料として使えるよう一部の地区をモデル地区として町が作り、生ゴミの減量化を図る		
O	生ゴミの出し方 ビンの回収一民間に出すと10円とかお金がもたらえる ゴミ袋の有料 資源ゴミの回収が月に一回一昔と今ではゴミの量・内容が変化している。見直してはいいか?	対策後、運営費をいくらか減らせるか ルールを決める	分別の徹底、一つ手間をかけてゴミの量を減らす 決められたルールにのっとり分別	個人に対して、メリットを提示 地域が中心となり、ピンを回収し個人へ還元 ・無料のときと有料のときの比較 ・効果の提示 ・回収を増やすことにより費用がいくらか増えるのか ・回収数を増やすことは可能か	

## ②第3回会議における意見

名前	分野	課題	個人の取り組み	地域の取り組み	行政の取り組み	その他、自由記載
A	(2)生ごみの処理		少しでも楽しんでできるように努力しようと思いました			もっと、たくさんの方が、こういう場に出られることがいいのではないのでしょうか
	(1)町のPR・意識啓発・住民モラル	ごみ問題の意識を高める	unnecessary 箱や袋は購入時に収集しない	コミュニティ、隣組、行政地区での意識を高める	・ごみをグラムやキログラム単位ではなく、月々袋単位での排出量としてPRする ・小中学校でのごみ問題の取り組み、啓発、授業内でのアピール	
	(2)生ごみの処理	ごみ処理方法を知る(知識不足)	自らが処理する方法を知る努力をする	地域から個人への伝達(ごみの出し方、処理の仕方)の具体的なアドバイス(実演)	個人地域の取組をPR(ごみ処理方法の伝達) ※チラシ等では出しているが見ていないのが現状と思える	
	(3)回収場所	今後高齢者、障がい者等の対応課題 ・資源ごみを自分で出せない方への対応。速く出せない、車でない出せない	協力、声掛けして対応する。	民生委員、区長、隣組長等の協力体制を取る	・収集場所を本所、支所に設ける ・広報(広報誌、HP)にて課題の提起と改善をPRする	
	(4)現状把握	現状への理解を深める	・個人の取り組み ・自らが他市町村の現状を知る		先進地への見学(住民等)実施 ※行政だけでなく、ごみ回収現場の見学	
	(6)ごみ袋の大きさ・枚数・コスト	ごみ袋の枚数			資源ごみ袋の1枚売り(本所・支所)特定の場所	
	(8)その他	資源ごみを袋に頼っている			行政区単位回収ボックス(ビン・カン等分別) ⇒行政区モデルにて経過を見る	
	(1)町のPR・意識啓発・住民モラル		ルールを守って、個人でやるべき事を徹底する なるべく水分が付かないよう、野菜等は先に刺き新聞紙にくるんで出す。苦しくならないよう意識を変えて楽しんで片づける(分別する)		いくつかモデル地区を作って実際にやってみる	
	(2)生ごみの処理		家庭のなかでごみ問題について話し合ってみる。個人が少しでも意識して買い物等をするにより減量できるのではと思います。 「もったいないの精神を持つ ・買い物する際いらぬ箱等は最初からもらわない ・楽しく分別する(意見があった)」		生ごみを肥料として活用できるよう取組んでほしい	
	(8)その他					
	(1)町のPR・意識啓発・住民モラル		・買い物する際いらぬ箱等は最初からもらわない ・楽しく分別する(意見があった)	住民へ説明と周知する。	最終目的をはっきりする	
	(2)生ごみの処理	意識を変える(楽しく分別する工夫をする)	決まったことを守る	集会等で説明する		
	(3)回収場所	老人への対応(回収場所への運び)		協同で行うようにする	広報等で知らせる	
	(4)現状把握	ごみ関係については無関心			改善点が見られないためもっとPRする	
	(5)行政コスト	集団回収へシフトする	集団回収に出す	モデル地区で一度実施する	推進する	
	(6)ごみ袋の大きさ・枚数・コスト	一枚から販売する				
	(1)町のPR・意識啓発・住民モラル		現状でよい			
	(2)生ごみの処理	ごみを減量することで、町、個人にどのような利点があるのか正しく分からない	ごみ減量することによって個人の利点になるだけではなく、町=個人の利点(税負担等)になることも知る。	減量による利点を正しく伝える		
	(3)回収場所	資源ごみの回収をどうするか(ビン等は月一回、それだと重い、高齢者はつらい)	できるだけ資源ごみを出さないようにする	月1ではなく、少量でも回収できるようにする(ボックスの設置)	ボックスを設置した場合、不法投棄の対策	
	(4)現状把握	町の現状把握不足	町が発信する情報に目を注ぎ努力をする		個人にどう影響するか伝える	
	(5)行政コスト	資源ごみを利用して町のお金にする	資源ごみを町に出す		資源ごみの回収を増やすことで、はたして町にお金が入るか試算する	
	(6)ごみ袋の大きさ・枚数・コスト	資源ごみ袋の大きさ・枚数	答申(案)と同じ	答申(案)と同じ	ごみ袋の小型化や枚数の削減と同時に集団回収場所の設置も検討してみる	
	(1)町のPR・意識啓発・住民モラル	ごみについて考える機会を作る	町の情報に関心を持ち、こまめにチェックする。自らが参加する!	・地域でのイベントを行う(エコフォーラム、ごみ拾い) ・学校でごみについて学習する(子どもたちに考えてもらう)	FBetcのSNS、町報、HP、地域のイベントを使用し積極的な情報発信を行う。	
	(2)生ごみの処理	生ごみの処理	・生ごみの分別の徹底 ・生ごみ処理機の活用	・生ごみになりがちな野菜くずetc本来捨ててしまう部分を使った料理教室等をする	・生ごみ処理機、牛の堆肥等を使用したモデル地区を作り、体験田か畑を利用した農業体験を行う。他部署と協力してやってもいいと思う。 生ごみ処理機をもっと積極的にPRし購入機会を増やすこと。広報やHPで知らせる	
	(3)回収場所	回収ステーションの設置	・回収場所まで持っていき、分別に協力する ・分別する仕分けの一人として参加する	同左	役場にも作るべき。各コミュニティセンターにオムツ回収箱、フルタブ、ペットボトルキャップを出す場所を作る(常に人がいるので、人も活用する) 資源ごみ(ペットボトル、ビン、古紙)をコンテナ回収とする。	・お金の流れ、ごみ処理の流れを住民にも分かりやすく伝えていく機会を設けるべき ・町の職員・障がい者雇用で収集人員をあてられないか?
	(4)現状把握	・ごみの分析 ・三輪産業さん、サポートさんに対する負担	ごみについて、考える	同左	・費用がどれくらいかかっているか整理し、無駄なものを省く ・ごみを分析し、減らす取組を明確にする	
	(5)行政コスト	サポートへの負担金の見直し	・個人での分別の徹底 ・サポート等、業者への委託をしたときの負担を考へてみる	学校、保育園etc. 公共施設での分別後出す努力をする。各家庭でも細かな分別をする	他の業者から見積もりをとる。他業者からの入札を促進するべき	
	(6)ごみ袋の大きさ・枚数・コスト	ごみ袋の枚数・大きさ・コスト	極力、ごみを仕分けする段階で出すごみを減らす	同左	・袋を5枚入り(大)・10枚入り(大)・小を作る ・ごみ袋の値段について、規格を他の自治体かどうか調べて適正な価格に設定する	
	(7)回収頻度	集団回収について	集団回収の時に極力出す	・集団回収の日時・場所を告知 ・子ども会・老人会・ボランティア・PTA等とする	・子ども会・老人会・ボランティア団体の利用促進 ・開催場所を告知する ・役場からも人を出してもらう	
	(8)その他	おむつのごみ問題	・大便を流す ・かさばらないよう努力する	同左	・おむつの回収箱をコミュニティセンター毎に設置する。	
	(1)町のPR・意識啓発・住民モラル	町のPR、意識啓発	町の取組に関心を持つ		ドリームまつりやイベントの時に、ごみの流れのブースを設け、住民にサポートでの処理もきめPRしたらどうか? ペットボトルのふたやベルマークなど何かの役に立つ意味を提示し、住民の参加する機会を増やしていったらよいのでは? するとごみも減ってくるのでは? 大刀洗町は年配者も多いので広報にも同様にPRしてほしい ・他の地域では資源ごみ袋がなく、各行政区の取組としてカゴを設置して回収している。住民が当番制で回収に係っている。町がどの部分に重点を置くか? で変わってると考えた。 ※カゴ回収になると住民の負担が増える。コストは減る。モラルや意識啓発にもつながる ※ごみ袋を売却すると住民負担は金銭的負担のみで、モラルや意識啓発には問題が発生する	
	(5)行政コスト	資源ごみの回収業者との関わり方の見直し	ペットボトルやアルミ缶など売却できる資源ごみも袋代が発生しているが、費用の流れの提示を住民が声に出す努力をする。今回の住民協議会などで	行政区でも住民の声をまとめていく努力が必要と考える	三輪産業さんに固定されているが予算決定する前に入札をし、見積り詳細を毎年あげてもらおう努力してほしい	
	(8)その他	オムツのごみが袋半分を占める(大人用、子ども用、ペット用とオムツのごみが増えている)	住民の声としてもっと行政に提案すると思う	リサイクル利用ができるのであれば、公民館やコミュニティセンターへ回収箱を設け、地域全体で取組む努力をする	リサイクルとして考え、取組むと良いのでは? サポートとの組合で考えるといひのでは? 将来的に必要と考え努力してほしい	
	(2)生ごみの処理	ごみ減量の意識	ごみを減らす工夫		PRを効果的に行う(イベント、勉強会等を行う) 現状を住民に伝え、ごみについての認識を深めてもらう	
	(4)現状把握	大刀洗町の現状を知らない			・他の自治体との比較を住民に伝える ・回収業者のコスト等見直し ・不燃ごみ袋を10枚を5枚にする ・ガラズ袋を小さくする ・現状月に1回を2回に変更する ・集団回収、時期(予定)を年間分を事前に住民に伝えておく ・大木町のオムツ回収、処理方法を検討	・ベルマーク、ペットボトルキャップ、カンのフルタブ等集めると役に立つものを町単位で回収できるようにする。
	(5)行政コスト	サポートへの負担金	コスト面にもっと関心をもつ			
	(6)ごみ袋の大きさ・枚数・コスト	ごみ袋				
	(7)回収頻度	資源ごみ回収回数		集団回収を増やす		
	(8)その他	オムツ回収				

名前	分野	課題	個人の取り組み	地域の取り組み	行政の取り組み	その他、自由記帳
I	(1)町のPR・意識啓発・住民モラル	町のPR	広報誌をみる	ごみの減量は税の負担も減ると住民PR	・FBに関係ある意見、住民のコメントを取り上げる ・ドリームまつりを利用し、啓発する	
	(2)生ごみの処理	いかに生ごみを減量させる方法	水分を切って出す	ごみの出し方勉強会	ごみの処理の流れを住民に写真で見せ、コストがどれ位かかっているのか、そして減量したら負担金が下がるなど、町で考える会を開催されたら関心が高まるのではないだろうか(イベントなど)	
	(3)回収場所	資源ごみ場所を増やす	集団回収に出す	子ども会、集団回収を多くする	・夜間に回収場所を設ける ・西地区のセンターにも回収場所を設ける	
	(4)現状把握	利便性、コスト、モラルを考える	意識を高める		ごみ情報の小冊子を作成し配布する	
	(5)行政コスト	コストを減らす	分別をしっかりと出す		キャップ回収、缶のプルタブ、ベルマークなど集めてワクチンや教材などに変え、皆が参加でき、ごみ減量できると思います	
	(6)ごみ袋の大きさ・枚数・コスト	ごみ袋の枚数(10枚)を考える	分別の徹底		・不燃物は5枚にして、ビンの袋は重くなるので、今の半分の大きさにしてもらいたい ・値段も考えてもらいたい。他の市町ではカゴ分別されてごみ袋がいりませんが、ごみ当番があります。	
	(7)回収頻度	不燃物の回数	ビンの色分けし出す		月1回を2回に	
	(8)その他	おむつのごみ(子ども、大人、ペット)	大便は流してごみに出す		回収箱の設置(現に大木町がやっています) おむつは炉が痛むのが早いと知りました 生ごみ処理機の助成を止めて、他のことを行うことを検討してみてもいいのではないかと	
J	(1)町のPR・意識啓発・住民モラル					<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局でホワイトボードに出た意見を箇条書きして議論の方向付けをしやすいサポートをしてほしい</li> <li>・休息を議論の合間にしてほしい</li> <li>・資料を読みいただき、解説してくれる町職員も参加してほしい</li> </ul>
	(4)現状把握		町民もごみ(可燃)について、一体いくらかかっているのか知ろうしてほしい	校区ごとにごみ減量と処理が減った費用を賄わせる 年一回これを元に減量チャンピオン校区を表彰する取り組み		
	(5)行政コスト			住民が参加して回収のコストを抑える協力を有 価値物の売払い金額を回収コストと相殺する努力をする 住民の協力を得られたコストは、住民の目に見える形で表示していく		
	(6)ごみ袋の大きさ・枚数・コスト	資源ごみ袋の販売枚数はぜひ見直してほしい		月一回の集積所で出ているごみ袋の数量データを取って、資源ごみ袋の袋ごとの割合を数値化する	出てきた数値を元に資源ごみ袋の入り枚数の適正化を図る努力をする	
	(8)その他	大人・子ども用おむつ回収をぜひ行ってほしい			・おむつ回収はぜひ取り組みをしていただきたい ・最近気温が上がってカラスがごみを散らしていることが多いので、夜間回収も検討してほしい(夏季限定)	
K	(2)生ごみの処理		コンポストに捨てるようにする		コンポストへの助成は継続する	生活するのに精一杯の多数派の人たちは環境に良い悪いといった問題意識で動くほどの余裕がない。私はイオン小郡で食品レジのパートをした時に裏窓を日々見て感じた。捨てることを資源物として多少の手間をかけて出すことで本人に利益として還元されるとなると効果的に促進できると思う。推進したい行為を住民が行う事で「大刀洗ポイント」みたいなのがたまってお金の役割を果たせばかなりの効果は期待できるのではないかと。生活に余裕のない人々は公共の福祉の考えでは動かない。アマゾンなどのネットショッピングは大刀洗という田舎に住む私などにとっては大変役に立つものである。通郵包装がすぐダンボールがすぐたまる。
	(3)回収場所				夜間などの公共施設に回収場所があるとういでに出してよい	
	(4)現状把握		広報などを読むようにする			
	(6)ごみ袋の大きさ・枚数・コスト				10枚入りは多すぎるので枚数を少なくする。ばら売りする(ごみ分別が細分化されている現状でこそばら売りが望まれる)にお店の管理の都合で逆にばら売りにくくなったという話なので、大きめのバラエティを出す。各種ごみ袋が各一枚などで入ったアポットパックを出す。少人数家庭では小さなごみ袋が望まれる。私が住んでいた東京都調布市でひとり暮らしした時はXS(極小)サイズを購入していた。たまたまに出したから	
	(7)回収頻度			集団回収を増やす	生ごみ、プラスチック類は週2が適当だと思う	
(8)その他	話に参加して(ほとんどしゃべってませんが)思ったのが今日のごみ問題も日本の社会の問題向きには議論できないように感じた。格差、残業、低賃金、パワハラ、うつ、DVなどが弱い立場の人を悩ませていて、そんな中でごみの分別、減らす、住民のモラル、現状把握といった事に取り組む余裕がないのが実態だと思っている					
L	(1)町のPR・意識啓発・住民モラル	ごみの現状を知らない	町のごみ問題に積極的に参加する	地域の活動の場にパンフレットを配布	ごみの減量化に対するコスト削減を住民にパンフレット作成しPRする。地域の活動の場イベント、サークルに参加住民の意識啓発をはかる。大刀洗町のごみ問題を情報発信する(FB、携帯用HPや機会によりのせる)	
	(2)生ごみの処理	生ごみの減量化	コンポストを活用し、生ごみを減らす		モデル地区を設定し、その効果を住民にPRしてもらう	
	(3)回収場所	資源ごみの回収場所が少ない	分別作業を継続する	子ども会、サークルを利用する	町で回収拠点をつくりプルタブ等の回収を行う 町民に報告する コミュニティセンター(4箇所)の有効活用	
	(5)行政コスト	負担金の見直し	業者に出す資源ごみの分別作業を行い、コストを下げる	子ども会(学校)に集団回収をしてもらう	サポートの負担金を減らすために地域分別作業のPRと経営分析の把握し行政から意見を述べてもらう	
	(6)ごみ袋の大きさ・枚数・コスト	資源ごみの枚数削減			資源ごみの中で不燃物の10枚単価から枚数単位で見直してもらう ばら売りを地域の中で	
	(8)その他	おむつのごみをリサイクルして考える	子ども、大人の大便はトイレに流し生ごみを減らす。ペット用についても極力使用回数を(日数)をのぼす		大木町のようにリサイクルをはじめる	
M	(5)行政コスト	サポートへの負担金の見直し 一回取など工程によって運営する組織が違うので全体が見えにくい	行政が出した分析から負担金を減らす努力をする。行政への協力を。行政への協力		行政が中心となり全体が見えやすく、分析を行う。分析結果から個人が出来ることの提示。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の行政の対策(生ごみ処理機など)の分析が不足しているため実際の効果から分らない。</li> <li>・リサイクルポイントみたいなものを作って、ポイントをごみ袋に変えられるみたいなシステムがあれば、みんな協力するのでは?</li> <li>・ごみ回収業者への支払明細が分からない</li> <li>・一他のごみ業者を探してみる。値下げ交渉</li> </ul>
	(8)その他	おむつのごみ一木町は回収している。他のごみもリサイクルする事ができるのでは?	日常で多く出るごみを行政に伝える		リサイクル方法を探す 回収を呼びかける	

## 大刀洗町住民協議会

### 第1分科会

分会長	佐田	壽男
副分会長	岡本	ゆり子
委員	永利	直美
委員	組坂	敏和
委員	飯田	浩一
委員	酒井	由佳
委員	宮崎	善央
委員	中村	祥子
委員	中垣	小夜子
委員	平田	竜一郎

### 第2分科会

分会長	中垣	幸男
副分会長	井上	宰継
委員	安丸	善子
委員	堤	敦子
委員	古賀	そのみ
委員	弥永	康寛
委員	川端	頼子
委員	畠山	将幸
委員	渡邊	裕子

### 構想日本

- ・伊藤 伸 (構想日本 総括ディレクター)
- ・熊谷 哲 (政策シンクタンク PHP 総研 主席研究員)
- ・福嶋 浩彦 (中央学院大学 教授)
- ・川嶋 幸男 (構想日本 政策アナリスト)
- ・田中 俊 (構想日本 政策スタッフ)